令和７年度　第２回まちづくりミーティング

日時：令和7年7月 14 日（月）10：30～11：30
場所：ふるま家
団体：共に幸せを生きる WA のクラブ

〇主な話し合いの内容
市長：　まちづくりミーティングは、これまでもさせていただいいているそれぞれの団体様が活動されていることを教えていただきながら、ざっくばらんに意見交換をさせていただいているところ。今日も多くの意見を聞かせていただきたい。

【意見交換】
団体：　WA クラブは、昨年6月に立ち上げた団体であり、多くのメンバーが三和地域在住。団体名の「WA」については、「和を以て貴しとなすの WA」「平和の WA」「ワクワクの WA」「循環の WA」といった多くの意味を込めて、「WA」表記にしている。循環については、リペアカフェの取組みなどを行っている。また、ふくちっこという名称で教育関係の取組みを行っており、映画上映会などをおこなっているところ。さらにジェンダー格差の解消をめざした取組みも始めていく予定である。メンバーは意図して募ったわけではないが、全員が子育て中の母親である。
市長　自身の小学校時代は、父が遠方におり母親は仕事で行事等にもあまり参加がなかった。そのような中でも父と母の「生き方」というのはしっかり見ていた。その後裁判所職員や京都府議を経験して、福知山市長に就任をしている。
　これまでを振り返ると時代が大きく変わったように感じる。その中でも「どのようなまちにしていきたいか」と考えていた時には、市民憲章にも御団体の団体名にもあり「幸せを生きるまち」ということは抽象的ではあるがめざすところにある。
　府議時代と比べると非常に感覚が違う。市の将来を考える時は、将来を見据えたうえでバックキャスティングして今のやるべきことを考えるようにしている。
団体：　最終的にめざすところは、みんなが「幸せを生きる」まちにということになると思う。「幸せに」ではなく「幸せを」というところに大きな意義があると感じている。そのために様々な属性、背景を持った方がいらっしゃる中、それぞれの立場になってどのような行動をしていくかが非常に大切である。昨日上映会を行った映画を見て感じたところだが、人口減少は日本全体で進んでいる中、例えば三和地域ならではの教育（自然を生かしたり）を展開することで魅力を感じてくださる方も多いのではないかと考えている。
市長：　コロナ禍で移住したいという方は多くみられたが、一定落ち着いているように感じる。企業が都会へ集中している中、地方ならではの特徴・特色を示してそこでだからできる仕事や子育てを進めていけるように、行政と企業でお互いが一緒に進めていけるよう

になればと考えている。これは一気に進められるものではないが、子ども達の「体験」の機会は非常に大切にしており、子ども達の将来の何かの糧になればと考えている。

団体：　ふくちっこの取組みでも、元理科教員により子どもたちの自然体験の機会を提供しており、都会からも参加者が多くある。タブレットの学習も進んでいる中大切な事であるように感じており、今年 10 月にも開催予定。

市長：　タブレットについても良し悪しがあるとは考えている。

団体：　タブレット学習は、ゲーム感覚で学習が進むなど良いところもあるが、特に書き練習で筆圧やとめ・はねなどのところで問題があるように感じている

市長：　そのような情報は教育委員会でも持っていると思うので、国の動向なども含めて検討していくことになるように思う。デジタルの利用も大切だというところはあるので、行政としてできることとできないことをしっかり考えていく必要がある。

国内の各地域の取組みや国外も見ていると「子育て支援」を充実させていても、合計特殊出生率があがる、維持できるわけではない。「少子化対策」と「子育て支援」をイコールで考えずに進めていくことが必要だと考えているところ。

子育て支援の中でミーティングテーマの中で、ヤングケアラーについてのテーマもあったが、今年度からコーディネーターを設置して取組みを進めているところである。また、聴覚児支援についてもテーマとして提示していただいていたが、各診療所で行われている新生児の聴覚検査から始まり、その後も学校や保育園や京都府とも連携しながら難聴児支援をおこなっている。

団体：　海外では新生児スクリーニングが行われないこともあるため、そういった点は日本は非常に手厚いと考える。

ヤングケアラーについて、コーディネーターを設置されたため制度の紹介をするなど近くに「そうじゃないかな」と思う子どもがいた時に、周りの大人がつなぎやすいように考える。家庭によっては金銭的な問題も出てくると思う。

市長：　ヤングケアラーコーディネータとして就いた職員は、これまでの経験を活かして多くの部署と連携ができるのでぜひどのようなことでも相談をしていただければ。市役所全体でも縦割でなく「どこに相談して大丈夫なように」と言っているので、気になることがあれば連絡をしていただきたい。